

特集

SPECIAL ISSUE

出異文化との 会い 受け入れ体験談

ホームステイ・
ホームビジット
受け入れ体験談



(公財)川崎市国際交流協会には、「ホームステイ・ホームビジットボランティア」として登録、ご協力いただいている方がいます。今回は、その中の3名の方にお話をうかがいました。興味はあるけれど大変そう…と感じている方も多いと思いますが、皆さんとても楽しんでいる様子を話してくださいました。

ホームステイ・ボランティアを始めたきっかけは?

佐野▶若い時にホームステイしたことがあり、機会があれば受け入れたいと思っていました。最初に登録したのは20年ほど前で、娘が幼稚園の時でした。最近は、毎年受け入れています。

松井▶私はオーストラリアで生活していた時、あちらの方々にとてもよくしていただいたので、ぜひ受け入れたいと思いました。10年程、ホームステイ・

ホームビジット両方で登録しています。
川口▶川崎市の広報紙で知り、2~3年前に登録しました。語学は得意ではないのですが、受け入れたいという気持ちは強かったので。

ステイ中の過ごし方は?

川口▶鎌倉、明治神宮、浅草、海…行きたい場所を聞いて出かけます。観

光地ではパンフレットに英語の記載があるので助かります。自宅では英語の話せる娘たちも呼んでスポーツの話などをしています。箸、扇子、滞在中に撮った写真をまとめたミニアルバムをお土産に差し上げたりします。

松井▶本人の希望をまず聞きますが、やはり神社仏閣が多いです。スーパーや100円ショップもすごく面白いみたいで、楽しそうにお菓子などをお土産に買っていました。



写真をまとめたミニアルバム

うちではホットプレート料理をよくします。食卓をみんなで囲むと話も弾んで楽しいですね。先日、ドイツ人に餃子を作りましたが「自分の国にも同じようなものがある」と話が広がりました。小学生の息子とは一緒にゲームをしたりアニメの話をしています。日本のアニメがきっかけで日本語を勉強している外国人は多いですね。

お部屋のタオルに、家族で書いたウェルカムカードを置いておくと、喜んで持って帰ってくれているみたいで

す。お土産のするめやおせんべいも好評です。

佐野▶うちではお習字で、色紙に好きな漢字や彼らの名前を漢字に当てはめて書いたりします。一枚は私たちに書いてもらって宝物に。帰る時に、習字をした色紙に、一緒に撮った写真をコメントつきで貼って渡します。思い出になるプレゼントだと本当に喜んでくれます。

ごはんは、焼き肉、かつなどの揚げ物、お寿司、たこ焼き、焼きそばが定番です。以前1週間ほど受け入れたイタリア人高校生には、お弁当も作りました。なんでもきちんと食べてくれて嬉しかったです。日本食は世界中にあるので、抵抗がないようです。

ホストファミリーを 考えている方へのアドバイスは?

松井▶最初は、午後だけ遊びに来てもらうという「ホームビジット」を受け入れてみるのも良いと思います。どちらにしても、家族の理解や協力は大切だと思います。

佐野▶朝シャワーなど、文化の差を感じることもありますが、そのまま受け入れることも大事なと思います。ただ、私はベジタリアン料理ができないので、それは事前にお断りしています。



ホームビジットオリエンテーション



川口▶向上心があって元気な外国人の皆さんのエネルギーに触発されて、自分自身も得るものが多いです。別れる時にはとても辛いですが、その後の交流もうれしいです。

松井・佐野▶そうですね。うちもメールやホリデーカードなどで連絡している方もいます。東日本大震災後はお見舞いの連絡をもらったりもしました。

「ホストファミリー」と 国際交流は?

佐野▶世界中にお友達がいると楽しいし、国同士の政治情勢は関係なく、心が通う話ができます。それに、個人的な知り合いができると、今まで関心のなかった国でも興味を持つようになったり、視野も広がります。

松井▶「日本の良いところを見てほし

い、理解してほしい。」の一念で頑張っています。また、子どもにもいい刺激になれば…。

ホームステイの方々を受け入れる際には、普段の生活やリズムが変わり大変なこともあるようですが、異文化や人に対する興味や温かさ、なにより出会いや交流の時間を楽しんでいる感じが印象的でした。

(取材・編集・編集ボランティア 相沢 明子・伊東 都)



帰国後、韓国から送られたクリスマスカード (感謝の気持ちが日本語で書かれていました。)

登録ボランティアのための研修会

3月16日(土)
開催されました

- 第1部:「地域社会の変化と多文化共生」
講師: 柏崎千佳子先生(慶應義塾大学教授)
- 第2部: シンポジウム
「多文化共生について外国人市民と一緒に考えよう」
パネリスト: ヴィクトリア・ルカシュークさん(ロシア)
チャン・ミエ・マウンさん(ミャンマー)
雷震さん(中国)
サンディー・チェンさん(カナダ)
コーディネーター: 小島俊彦さん(登録ボランティア)

講演では、マイノリティーとしての生きにくさを理解したうえで、地域社会における対等な立場と自立を、マジョリティーの社会が促していくことが必要という、「多文化共生」実現への課題が指摘されました。

シンポジウムでは、パネリストの皆さんの体験談から「外国人も日本人も暮らしやすい社会をつくるためにはどうしたらよいか?」を探りました。在住外国人の皆さんは、日本のルールに慣れ、守ろうと努力していることがよくわかりました。それぞれの文化を尊重し、外国人だから…ではなく個人として向き合いたいと思いました。

また、参加者からは、今回のような勉強の機会やボランティア活動の場が増えるといいという意見が出ました。他のボランティアの方と交流する時間もあり、改めて、自分のできることをがんばりたいという気持ちになりました。

(取材・文: 編集ボランティア 青柳尚子)



習字などで書いてもらった色紙

ホームステイ・ホームビジット受け入れにご興味、ご質問のある方は、協会事務局までご連絡ください。

※ホームステイ: 宿泊(1泊~)を希望する外国の方の受け入れ(23年度末現在150家庭)

※ホームビジット: 訪問(宿泊なし)を希望する外国の方の受け入れ(同37家庭)